

(仮称) 高齢者総合サポートセンター基本構想

— 概要版 —

第1章 高齢者を取り巻く現状等

■ 千代田区の今後の見通し

1 将来人口推計【本編 2ページ】

- 高齢化率は、団塊世代が高齢者になる平成27年度以降と、第二次ベビーブーム世代が高齢者になる平成47年度以降に、増加率が高くなっていく。

【表1】

(単位:人)

年齢別	平成12年* (2000)	平成17年* (2005)	平成22年 (2010)	平成27年 (2015)	平成32年 (2020)	平成37年 (2025)	平成42年 (2030)	平成47年 (2035)
65～74	4,049	4,272	4,636	5,493	5,427	5,112	5,562	6,480
75以上	3,473	4,150	4,632	5,010	5,575	6,474	6,603	6,536
計	7,522	8,422	9,268	10,503	11,002	11,586	12,165	13,016
高齢化率	20.9%	20.2%	20.4%	22.5%	23.4%	25.2%	26.8%	29.4%

注) *印は国勢調査結果による。ただし、総数には年齢不詳者数を含む。
引用：東京都HP内統計情報「東京都男女年齢(5歳階級)別人口の予測—統計データ—(平成20年3月)」に、国立社会保障・人口問題研究所「日本の都道府県別将来推計人口」(平成19年5月推計)の伸び率を利用し、加工した。
伸び率は都道府県用に推計されたものから算出したので、正確な推計ではない。

団塊の世代が高齢者に

第二次ベビーブーム世代が60代に

2 千代田区高齢者のみ世帯(単身・夫婦のみ)に属する高齢者数の推移【本編 3～4ページ】

- 高齢者単身世帯は、年々増加していく見込みである。特に、75歳以上の後期高齢者の単身世帯の増加率が高い。
- 夫婦のみ世帯は50%前後で推移するが、団塊の世代が高齢者になる平成27年度以降、増加していく。

3 要介護(支援)認定者数【本編 6ページ】

- 高齢者人口の増加に伴い、要介護(支援)認定者数も増加していく。特に、団塊世代、第二次ベビーブーム世代が高齢者になる平成25年、平成40年頃には認定者数が大きく伸びる見込みである。

■ 高齢者の現状

1 千代田区の高齢者の特色【本編 7ページ】

- 独居高齢者のみの世帯の割合が高い。
- 昼間人口を対象にした診療所が多く、在宅医療を支えてくれる医療機関が少ない。
- 狭小な住居、改修が困難な住宅で暮らしている高齢者が少なくない。

2 高齢者を支える現行の組織・機関等【本編 8ページ】

現在、区役所のほか、高齢者あんしんセンター麴町、高齢者あんしんセンター神田、社会福祉協議会、民生・児童委員、医療機関、介護保険サービス事業者、高齢者センター、シルバー人材センター、ボランティアセンターなどが高齢者の生活に係わっている。

■ 現行の課題及び今後の取組（主な課題）

1 高齢者の様々な相談拠点【本編 9～11ページ】

- 相談は、高齢者の関わる全ての内容、例えば、健康への不安や介護の問題、家庭のこと、後見人のことなど、複数の課題が多岐にわたる。今後、単身や高齢者世帯のみの高齢者が増加するに伴い、相談件数が大きく増加することが予想されており、現状の人員体制のままでは、十分に対応できない面がある。

2 在宅ケア（医療）拠点【本編 11～15ページ】

- 介護が必要な高齢者は、同時に医療も必要な場合が多く、在宅で療養するには、「在宅での医療支援をどのように確保していくのか」という課題がある。
- 在宅で介護サービスをうける場合は、訪問介護やデイサービス、ショートステイなどの介護保険サービスを利用するが、在宅で医療対応を必要とする場合には、在宅療養支援診療所、訪問看護ステーション、リハビリ施設を利用することとなる。

3 高齢者の活動拠点【本編 15～17ページ】

- 今後、様々な趣味や嗜好をもつ団塊の世代が高齢者になるに伴い、施設の役割や内容を広げていくことが必要である。
- 現在の高齢者センターは老朽化しているほか、施設が狭く、利用ができないこともあるため、様々な活動にも十分に対応できる施設が求められている。

4 高齢者ケアに関する人材育成・研修拠点【本編 17～18ページ】

- 現在、区内施設では、社会福祉協議会とボランティアセンターが高齢者ケアを行うための人材育成や研修拠点機能を担っているが、長期的展望にたって、総合的・体系的に人材育成を行っていく環境が整っておらず、改善する必要がある。

5 多世代交流拠点【本編 18～19ページ】

- イベント等単発・短期間の交流のイベントが多く、多世代が日常的に集まり、関わりあいをもつ機会が少ない。

(参考)

■ 医療保険制度や介護保険のしくみの見直し

- ・平成20年4月から75歳以上を対象にした長寿医療制度がスタート
- ・平成23年度末までに、療養病床の再編が行われ、介護型療養病床が廃止される。
- ・千代田区では、平成21年末現在で、26人が区外の介護型医療施設に入所しているが、今後の療養病床の再編に伴い、医療対応が必要な高齢者が在宅へ向かうことが予想されている。

第2章 高齢者総合サポートセンターの概要と今後の検討課題

■ (仮称) 高齢者総合サポートセンターの概要

1 基本目標【本編 20ページ】

『その人らしさ』が尊重され、住み慣れた地域で安全に安心して生活が続けられるまち千代田を実現する。

2 基本方針【本編 20ページ】

高齢になって感じる「不安」を解消し、住み慣れた地域での生活を24時間365日支援するとともに、高齢者の活動拠点、福祉・介護に関する人材育成・研修拠点、さらには世代を超えた交流拠点としての機能を備え、区における高齢者福祉行政の中心的役割を担っていく。

加えて、既存の高齢者福祉サービスとのネットワークづくりの推進などコーディネータとしての役割も果たしていく。

3 機能

① 高齢者の様々な相談拠点【本編 20～22ページ】

機能目標	<ul style="list-style-type: none">これまで、高齢介護課や高齢者あんしんセンターで様々な相談をうけてきたが、(仮称) 高齢者総合サポートセンターでは、特に、解決までの関係整理が複雑な相談を受け付ける。24時間365日相談を受ける連絡体制を構築していく。
類似機能	・区、高齢者あんしんセンター、社会福祉協議会(成年後見センター)

② 在宅ケア(医療)拠点【本編 22～26ページ】

機能の考え方	<ul style="list-style-type: none">①在宅療養支援診療所、②訪問看護ステーション、③訪問リハビリテーション、④通所リハビリ施設が、相互に連携を図る。地域の医療機関や介護事業者等と協力し、「医療」と「介護」の両側面から総合的に高齢者の在宅療養を支援していく。
類似機能	・現行なし

③ 高齢者の活動拠点【本編 27～28ページ】

機能の考え方	<ul style="list-style-type: none">区内の高齢者に対し、健康問題や生活全般に係る各種の相談に応ずるほか、健康の保持・増進、教養の向上、レクリエーションなどの便宜を総合的に供与し、高齢者福祉の増進を図る。
類似機能	・高齢者センター

④ 高齢者のケアに関する人材育成・研修拠点【本編 28ページ】

機能の考え方	<ul style="list-style-type: none">現場ニーズに柔軟に応えられる研修プログラムを実施し、質の高い介護・福祉人材、ボランティアを育成する。
類似機能	・現行なし

⑤ 多世代交流拠点【本編 29ページ】

機能の考え方	<ul style="list-style-type: none">入所団体や区が使用するほか、外部にも貸し出す「多目的ホール」を整備し、各団体の活動を本施設の中で活発に展開し、多世代の交流を促進する。大規模災害時には「災害ボランティアセンター」として活用する。
類似機能	・現行なし

4 必要な面積【本編 30ページ】

機 能	面 積
①高齢者の様々な相談拠点	1 2 0 m ²
②在宅ケア（医療）拠点	7 1 0 m ²
(A) 在宅療養支援診療所	5 0 0 m ²
(B) 訪問看護ステーション	3 0 m ²
(C) 訪問リハビリテーション	3 0 m ²
(D) 通所リハビリ施設	1 5 0 m ²
③高齢者の活動拠点	2, 2 0 0 m ²
④高齢者ケアに関する人材育成・研修拠点	3 3 0 m ²
⑤多世代交流拠点	5 0 0 m ²
合 計	3, 8 6 0 m ²

※エントランスや駐車場、廊下等共有スペース（推定約2,600 m²/全体の4割）は含んでいないため、今後の検討の中で、面積が増加することとなる。

5 用地に関する要件等【本編 30ページ】

<望ましい条件>

- 区民、特に高齢者のアクセス利便性（交通アクセス、道路環境）が一定程度確保され、かつ区
の中心地が望ましい。
- 周辺環境の調和が保たれる。
- 千代田区有地である。

■ 今後の検討課題

1 運営手法等【本編 31ページ】

- 運営手法については、民間の専門分野もできるだけ活用しながら、既存の庁内組織との関係性
や経費などを踏まえ、適切な方法の検討を進めていく必要がある。
- 本施設は、様々な機能を有するため、ともするとばらばらに運営されることが懸念される。こ
のため、それぞれの機能を複合的に調整する総括責任者の活用を検討する必要がある。

2 関係機関との連携【本編 31ページ】

- 在宅療養支援診療所等の運営方法は今後の課題であるが、区には医療事業を運営するノウハウ
がない。このため、人材確保や入院機能を有する医療機関の協力を検討する必要がある。
- 様々なタイプの高齢者の要望に応え、高齢者が積極的に活動に参加できるよう、「千代田区シル
バー人材センター」、「ちよだボランティアセンター」等の各施設が連携を図り、幅広い年代に
応じたプログラムを提供していく必要がある。

3 用地の選定【本編 31ページ】

- 本施設は、今後の高齢者福祉行政の中心となる施設であるため、関係者と調整を図りながら、
条件に適合した用地を選定する必要がある。